

旭川市博物館の民族資料

旭川市博物館

旭川市博物館が所蔵する民族資料の多くは、河野常吉・広道・本道氏が三代にわたって収集したものであり、河野コレクションとして知られています。

大半の資料の収集にあたった広道氏は、北海道史研究に大きな足跡を残す常吉氏の次男として1905年（明治38）に札幌市で生まれました。北海道教育大学札幌分校教授をつとめながら、北海道考古学やアイヌ民族の研究で指導的な役割を果たしましたが、1963年（昭和38）に亡くなりました。その収集資料は、アイヌ関係資料のほか、サハリン、大陸、台湾の民族資料を含んでいます。

アイヌ民族資料は、収集地が全道におよび、またその内容も祭具、生活用具、狩猟採集具など多岐にわたっています。

ニヴフ（ギリヤーク）やウシルタ（オロッコ）などサハリンの先住民族資料は、広道氏が1932（昭和3）年、37年、38年、40年に実施したサハリン（樺太）での昆虫採集調査の際に収集したものです。

大陸のオロチョンの資料は、広道氏が1944年（昭和19年）に当時の満州国総務庁から大興安嶺総合調査学術班長に委嘱され、その調査の際に収集したものです。